

巻頭言 —院内転倒・転落の予防について—

コロナとの闘いが未だ続いている中、病院の外ではマスクを外した方々の笑顔もよく見られるようになってきました。病院内では引き続き、マスクの着用をお願いしております。ご協力をお願いいたします。また新年度を迎えたことで、新しいスタッフの仲間入りの時期となり、病院内にもフレッシュな風を吹かせてくれることと思います。

さて、毎年4月の病院だよりの巻頭言は副院長が担当しているとのことで、今回は医療安全委員長かつ整形外科医でもある私より、院内で起きる転倒・転落についてお話ししたいと思います。

転倒の原因は様々ですが、内的要因として、筋力低下や平衡感覚低下などの運動機能、視力低下や聴力低下などの感覚機能、意識障害や認知機能の低下などの精神神経機能、薬剤による影響などがあります。具体的な薬剤として、睡眠薬や抗不安薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、降圧剤、抗がん剤などがあり、多くの薬剤を服用することも転倒の要因の一つと言われています。外的要因としては、段差、履物、床濡れ、点滴やドレーン（体内に溜まった水分・血液等を体外へ排出するための管）などの装着物、暗い照明などの環境にかかわるものがあります。

医療機関における転倒・転落は、インシデント（「アクシデント」の一步前、ヒヤリ・ハットした経験）報告の中でも頻度が高く、日本医療機能評価機構医療事故防止センターの報告では、2018年に発生した全4,565件のインシデントのうち、転倒・転落事故は989件（21.7%）で、そのうち骨折等の傷害残存の可能性が高い事例は約11%を占めます。病院内での転倒予防対策は、医療安全の観点から重要な課題であります。転倒による骨折には、運動不足や栄養不足が原因となり、また閉経後の女性にも多くみられる骨粗鬆症こつそしょうしょうが強く関連しています。骨粗鬆症の治療薬による骨折予防には、我々整形外科医が積極的に関与する必要があります。

また当院では、2013年以前の院内転倒の症例の54.5%がスリッパを履いていた、という調査結果から、その後院内でのスリッパの着用を禁止しましたが、残念ながらその後も院内での転倒事例はたびたび発生しています。これは前述の通り、転倒の要因がスリッパだけではなく、様々であることに起因しており、その多くの要因を除去しなければならないことがわかりました。院内転倒・転落の予防には、多職種（医師、看護師、薬剤師、理学・作業療法士、管理栄養士など）による連携が必要であり、当院では今後も多職種で構成された医療安全チームが先頭に立って努力していきます。患者さまご自身も一緒に、予防のための取り組みにご協力頂けると幸いです。

最後に、令和6年能登半島地震で被災された皆さま、ならびにご家族の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。関係者の方々は未だ不安な日々も続いているかと思いますが、一日も早い被災地の復興をお祈りいたします。



<整形外科>

川崎 恵吉 副院長

- P1. 【巻頭言】—院内転倒・転落の予防について—
- P2~3. 【医学講座コーナー】乳がんについて
- P4. 【お知らせ】春期市民公開講座の開催について
- P5. 【患者さんからのご意見・ご要望】・
【お知らせ】がん患者サロン「きぼう」の開催について
- P6~7. 【お知らせ】医師の配属・退職・異動について
- P8. 【お知らせ】患者満足度調査について・【編集後記】



【医学講座コーナー】乳がんについて

〈乳腺外科 教授 千島 隆司〉

日本では毎年10万人以上の女性が新たに乳がんと診断され、女性がかかる悪性腫瘍の第1位となっています。検診の普及、治療法の目覚ましい進歩により、85%の患者さんは乳がんを克服することができるようになりましたが、残念ながら15%の患者さんは乳がんで命を落とされています。現在、9人に1人の女性が生涯に一度は乳がんを経験する時代です。“まさかの時”に備えるために、今回は、「自分のため、大切な人を守るために知っておきたい乳がんには負けないための3つのコツ」についてお話ししたいと思います。

コツ1：乳がんは、できるだけ早く見つけるべし！

よく、“乳がんには罹らないためには何に気をつければ良いですか？”という質問を受けますが、現時点で乳がんを確実に予防できる方法はありません。ただ、どのような人に乳がんができやすいかという大まかな傾向は分かっています。乳がんの特徴的な因子としては、初潮が早く、閉経が遅い女性でリスクが増加します。閉経後にホルモン補充療法を行っている人も高リスクと言えます。これは、女性ホルモン（エストロゲンとプロゲステロン）の周期的変化が絶え間なく、長期間にわたり続いている人に乳がんが発症しやすいことを示しています。

もう一つ注意すべきことは、親戚や家族に乳がんもしくは卵巣がんの人が複数名いる場合です。特に若い年代で乳がんを発症している家族がいる場合には注意が必要です。乳がんの約5%はBRCAという遺伝子に原因があり、この遺伝子にキズがある人は、生まれつき「乳がんや卵巣がんにかかりやすい体質」となっています。

もし、これらのリスク因子に心当たりがある場合は、「プレストアウェアネス」を心掛けるようにしてください。プレストアウェアネスは「自分の乳房を気にかけてあげること」と訳されます。日ごろから自分の乳房を触ったり、鏡で見たりすることで、乳房内のしこりや皮膚のくぼみなどの“小さな変化”にも気づけるようになってきます。また、自分の乳房に関心を持つことで、乳がん検診を忘れずに受診できるという効果も期待できます。

乳がんも、早期に発見すれば最小限の手術、薬物療法で克服することができるので、プレストアウェアネスを心がけ、40歳になったら2年に一度はマンモグラフィ検診を受けるようにしましょう。乳がんの家族が多い人や、乳房が比較的硬い（ゴツゴツしている）人は、超音波検査を追加したほうが良い場合もあるので、検診時に担当医へ相談してみることをお勧めします。

プレストアウェアネスの4つのポイント

1. 自分の乳房の状態を知る
2. 乳房の変化に気をつける
3. 変化に気づいたらすぐに医師へ相談する
4. 40歳になったら、2年に1度は乳がん検診を受ける



【医学講座コーナー】乳がんについて

〈乳腺外科 教授 千島 隆司〉

コツ2；乳がんは、できるだけキレイに治すべし！

現在の乳がん治療では、手術を避けて通れません。乳がんは体の表面、とくに胸という一番目立つところのできる“がん”なので、入浴の度に手術のキズが目に入ってしまう。最近では、手術手技の進歩や放射線照射を組み合わせることで、変形を最小限に乳房を温存することができるようになりました。また、乳房を全切除せざるを得ない場合でも、シリコンや自分の体の一部（脂肪や筋肉）を使って乳房を再建するという選択肢も増えました。

乳がんが診断された場合でも、焦ってすぐに手術を受けるのではなく、主治医と十分に相談しながら、自分のライフスタイルにあった手術法を選択するようにしてください。手術のキズとは一生の付き合いになります。乳がんとの闘病意欲を保つためにも、乳がんを克服した後の“生活の質”を向上させるためにも、手術による見た目の変化は最小限にしておきたいところです。



コツ3；乳がんは、適切な薬物治療を完遂すべし！

手術と並んで乳がん治療の二本柱となっているのが薬物療法です。乳がんの特徴的な内分泌療法（通称、ホルモン治療）に加えて、抗がん剤などの化学療法や分子標的療法（がん細胞特有の性質を狙って攻撃する分子標的薬を使う治療法）、免疫療法（自分が持つ免疫力に対するがんの防御能を無力化する治療法）があります。

乳がんは内分泌感受性の有無、HER2 タンパク過剰発現の有無で4つのグループ（サブタイプ）に分けて治療法を選択します。一般に内分泌感受性は“おとなしい乳がん”の指標で、HER2 タンパク過剰発現は“荒々しい乳がん”の指標とされています。サブタイプによって使う薬剤も副作用も異なります。治療期間も数週間で終わるものから、10年間の長期にわたるものまで様々です。自分の乳がんはどのサブタイプに当てはまるのか、どの薬物療法が必要なのかを知っておくことが大切です。その上で、十分な副作用対策を行って治療をやり切る（完遂する）ように努めましょう。“乳がんは治りやすい”と言われるますが、そのためには“治療を完遂すること”が条件であり、薬物治療を敬遠したり、途中で止めてしまったりしては、期待される治療効果は得られないことを忘れないでください。

乳がんの治療では、新しい薬剤が次々と開発されており、将来的には手術治療が不要となる時代が来るかもしれません。しかし、新しい薬剤が出てくるたびに、新しい副作用にも注意が必要となります。まずは、自分の乳がんにどのような薬剤が必要なのかを理解して、効果と副作用についても主治医と十分に相談しながら、最後まで治療を完遂することを心掛けてください。

まとめ

皆さんの身の回りにも、乳がんを経験した家族、友人、同僚がいらっしゃるかと思います。でも、その人たちの多くは、今も元気に日常生活を送っているのではないのでしょうか。現代の女性にとって、乳がんは“大きな脅威”となっていますが、“3つのコツ”を活かすことで、確実に克服できる病気でもあります。何か気掛かりなことがあれば、近所の乳腺クリニック、乳腺外科を受診して専門医からアドバイスを受けるようにしてください。

2024年度 春期市民公開講座 暮らしと健康



昭和大学
横浜市北部病院

〈司会〉内科 准教授 伊藤 英利

第1部

自分のため、大切な人のために知っておきたい
乳がんにつけないための3つのコツ

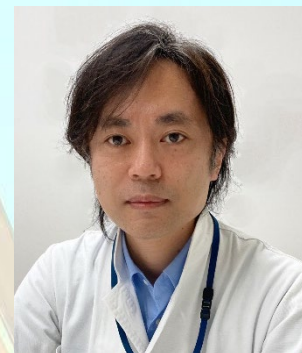
〈演者〉乳腺外科 教授 千島 隆司



第2部

これからの認知症ケア

〈演者〉精神神経科 准教授 富岡 大



開催日時

5月11日(土) 13時30分～

参加方法

参加無料・予約不要

▶ 集合参加 場所：西棟4階講堂

▶ オンライン参加 (Zoomウェビナー)

※右記QRコードからアクセスできます。

詳細は当院ホームページに掲載しています。



いずれも予約不要ですので、お気軽にご参加ください。

主催

昭和大学横浜市北部病院

E-mail: nhkouhou@gmail.com

後援

公益社団法人 横浜市病院協会

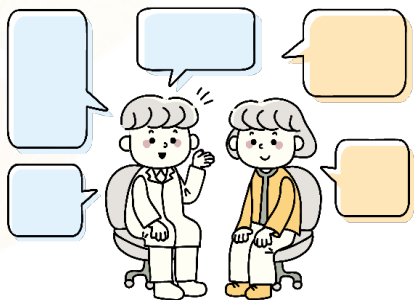
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりご意見箱にいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望につきまして、回答・改善策を掲載いたします。

なお、その他の掲載されていない内容につきましても別途対応しております。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>院内で電話をしている人がいても、誰も注意をしません。 電話をしてもよい場所が分かるように、掲示をしたらよいのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 当院では、以下の通り通話可能な場所を設けています。</p> <ul style="list-style-type: none">・病棟各個室・各階ティールーム・各階エレベーターホール・各階公衆電話エリア・中央棟9階レストラン・中央棟3階患者待合エリア・中央棟2階西棟連絡通路・中央棟地下1階時間外出入口 <p>これらの場所には「通話可能エリア」の掲示を行っておりますが、より分かりやすい掲示を検討します。 上記以外の場所で通話をされる方がいらっしゃいましたら、お声がけをしますので、お近くのスタッフにお知らせください。 (回答部署：管理課)</p>

【お知らせ】がん患者サロン「きぼう」の開催



がん患者サロン「きぼう」の開催が、4月18日(木)に決定いたしました。

今月のミニレクチャーのテーマは「がん治療と緩和ケア」と「心のつらさ」です。がん治療において必ず直面する、緩和ケアや心のケアについてお話します。座談会も行いますので、ぜひご参加ください。

開催日時：4月18日(木) 14:00~15:00(予定)

開催方法：中央棟9階会議室(オンライン参加可能)

ミニレクチャー：「がん治療と緩和ケア」・「心のつらさ」

(申込方法については、右記QRコードまたは

病院ホームページをご覧ください。)

お問い合わせ：中央棟1階100番 総合サポートセンター・

がん相談支援センター 045-949-7000(代)



医師の配属・退職・異動について

新規配属（4月より）

【採用】

- ・尾町 健将（内科・助教）

【他施設から】

- ・関 純一（消化器センター・助教） 小林病院より
- ・小倉 庸平（消化器センター・助教） 小田原市立病院より
- ・奥村 大志（消化器センター・助教） 静岡県立がんセンターより
- ・峯岸 洋介（消化器センター・助教） 市立角館総合病院より
- ・瀧島 和美（消化器センター・助教） 都立荏原病院より
- ・荏原 誠太郎（循環器内科・助教） 菊名記念病院より

【附属施設から】

- ・五味 邦代（消化器センター・講師） 藤が丘病院より
- ・塚本 茂人（循環器内科・講師） 昭和大学病院より
- ・井川 涉（循環器内科・講師） 昭和大学病院より
- ・小野 貴広（こどもセンター・助教） 江東豊洲病院より
- ・東 みなみ（こどもセンター・助教） 昭和大学病院より
- ・青木 康一郎（こどもセンター・助教） 昭和大学病院より
- ・田中 有咲（メンタルケアセンター・助教） 烏山病院より
- ・矢野 怜（内科・准教授） 東病院より
- ・佐々木 陽平（内科・助教） 昭和大学病院より
- ・児玉 恵理子（内科・助教） 藤が丘病院より
- ・村上 尚来（形成外科・講師） 江東豊洲病院より
- ・松柳 美咲（乳腺外科・助教） 昭和大学病院より
- ・東園 和也（脳神経外科・助教） 昭和大学病院より
- ・大下 優介（整形外科・准教授） 昭和大学病院より
- ・角田 智亮（整形外科・助教） 藤が丘病院より
- ・宮本 真豪（産婦人科・講師） 藤が丘病院より
- ・波多江 健五（産婦人科・助教） 昭和大学病院より
- ・鶴木 勉（泌尿器科・助教） 昭和大学病院より
- ・水沼 萌（泌尿器科・助教） 藤が丘病院より
- ・巖崎 薫（眼科・助教） 東病院より
- ・中筋 康太（耳鼻咽喉科・助教） 昭和大学病院より
- ・宇留間 周平（耳鼻咽喉科・助教） 藤が丘病院より
- ・山口 弘貴（病院歯科・助教） 歯科病院より
- ・生方 雄平（麻酔科（歯科）・助教） 歯科病院より
- ・松村 憲（麻酔科（歯科）・助教） 歯科病院より

医師の配属・退職・異動について

退職・異動

【退職（3月まで）】

- ・石田 文生 (消化器センター・教授)
- ・垣迫 健介 (消化器センター・助教)
- ・中村 大樹 (消化器センター・助教)
- ・小野 盛夫 (循環器内科・講師)
- ・飛鳥井 邑 (循環器内科・助教)
- ・三倉 健太郎 (内科・助教)
- ・野木 孝准 (内科・助教)
- ・小西 典子 (内科・助教)
- ・木村 翔一 (整形外科・助教)
- ・宮上 哲 (産婦人科・講師)
- ・横山 康太 (眼科・講師)
- ・村上 大軌 (放射線科・助教)
- ・川口 由佳 (麻酔科・助教)

【異動（4月より）】

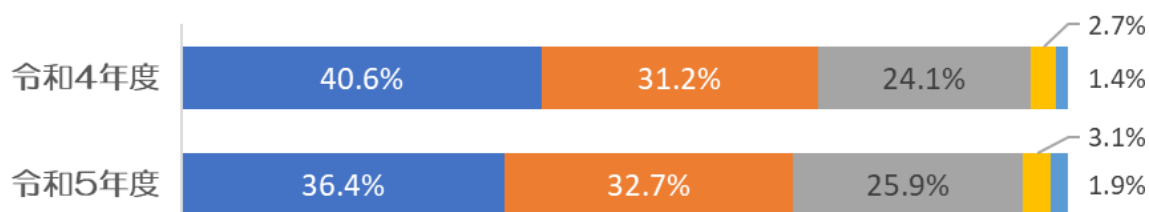
- | | |
|------------------------|-------------|
| ・松平 真悟 (消化器センター・講師) | 衛生学公衆衛生学講座へ |
| ・望月 泰秀 (循環器内科・講師) | 昭和大学病院へ |
| ・大山 祐司 (循環器内科・講師) | 昭和大学病院へ |
| ・山口 将基 (こどもセンター・助教) | 江東豊洲病院へ |
| ・笹森 大貴 (メンタルケアセンター・講師) | 烏山病院へ |
| ・沖野 和麿 (メンタルケアセンター・助教) | 東病院へ |
| ・金野 竜太 (内科・准教授) | 藤が丘病院へ |
| ・冨塚 陽介 (形成外科・講師) | 藤が丘病院へ |
| ・吉川 泰司 (整形外科・講師) | 昭和大学病院へ |
| ・青山 茉利香 (産婦人科・助教) | 藤が丘病院へ |
| ・宮澤 昌行 (耳鼻咽喉科・助教) | 江東豊洲病院へ |
| ・橋詰 典弘 (放射線科・助教) | 昭和大学病院へ |
| ・堅田 凌悟 (病院歯科・助教) | 歯科病院へ |
| ・梅本 理子 (麻酔科(歯科)・助教) | 歯科病院へ |

【お知らせ】患者満足度調査を実施しました

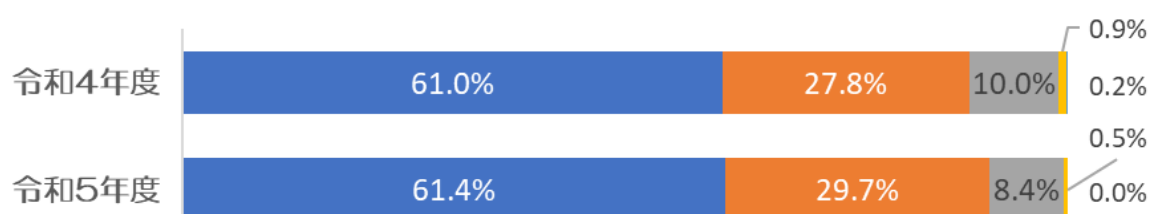
当院では、院内サービスの向上をめざして、提供されている院内サービスを患者さんがどのように感じているかを把握し、改善策を検討するために患者満足度調査を毎年実施しています。今回は外来患者さん 1,098 名、入院患者さん 379 名にご協力いただきました。ご回答いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

集計結果の詳細は当院ホームページに掲載いたしましたので、ぜひご覧ください。

今回の受診の満足度はいかがでしたか



入院中に受けた医療サービスの満足度はいかがでしたか



■非常に満足 ■満足 ■どちらともいえない ■やや不満 ■不満

編集後記

この冬は暖冬で穏やかな日が多かった印象ですが、春の到来は心が浮き立つものです。桜の開花も早く、3月中に花見を楽しまれた方もおられるでしょう。新型コロナウイルス感染症が5類となり、様々な制限が緩和され、学校や職場等では歓迎会等の集まりも賑やかに行われています。しかしながら、その流行は終息しておらず、日々感染する患者は相当数に達しております。病院内では感染リスク、重症化リスクの高い患者さんも多く、感染対策は依然必要です。来院される方にはご負担をお掛けする場面も多いと思いますが、引き続きご協力下さい。

今春も多くの新人職員、新研修医を採用することが出来ました。当院は教育病院としての役割もあります。引き続き、彼らの教育にもご協力をお願いします。

(広報委員会 委員長 緒方 浩顕)



北部病院だより 第190号 (2024年4月1日発行)

発行責任者 門倉 光隆 (昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕 (広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。